平成２５年９月１９日

北栄町議会
　議　長　　青　亀　恵　一　　様

北栄町議会議会運営委員会
委員長　　池　田　捷　昭

議会運営委員会調査報告書

本委員会は、次の事件について先進地の調査を終了したので、会議規則第７７条の規定により調査結果を次のとおり報告します。

記

１　調査事件
（１）行政改革の取り組みについて
調査地　島根県海士町

２　調査期間　　平成２５年７月２２日（月）～２３日（火）　　２日間

３　調査結果及び所感

＜調査結果＞

島特有の地縁、血縁を否定したこと（選挙）がすべてのスタートである。町の人口は激減。財政悪化に危機感を持ち「島の未来は自ら築く」ため、生き残るための守りの戦略（大胆な行財政改革）、生き残りをかけた攻めの戦略（地域資源を活かした産業創出）を実行した。

行革は町民､職員に理解されなくては進まない｡町長自ら給与５０％カット、これに呼応した特別職、職員、議員、その他役職者のカットが各団体等の補助金返上につながり町民との一体感が生まれる。特に職員の意識改革（年功序列の廃止、適材適所で現場主義）や毎週の経営会議（管理職）では徹底議論、提案がされる。

「既存の物を壊す取り組み」が全国に報道され、一躍注目される存在になった。

攻めの戦略として地域資源を活かし、産業を興し、雇用の創出につなげる。産業３課が町の玄関口で島の味覚や魅力を島まるごと全国に情報発信している。産業振興のキーワードは「海」「潮風」「塩」の３本柱である。厳しい評価が下される東京で認められなければブランドにならないという考えからメインターゲットは東京である。

商品開発研修制度は、よそ者の発想と視点で商品化に挑戦している。公共事業で施設を作り、公設民営により「島じゃ常識さざえカレー」「隠岐海士のいわがき・春香」「海士の塩・梅」「干しナマコ」の商品化や CAS 技術の海外輸出の成果を出している。

＜所　感＞

過去２回、山内町長のお話をお聞きしていたので、今回は職員の産業創出課長大江さんから話を伺った。海士町を語る時に山内町長の「島を、人を愛した行政が最大のサービス産業だ」との経営理念が職員、町民に理解されて今に至っていると感じた。

一にも二にも、山内町長の町を愛し、町の資源を活かし、将来を見据えた町づくりへの強い信念と胆力に敬意を表し、今回の視察が有意義であったことに感謝するものである。